

【登場人物】

主人公：カオリ、30代女性

新潟市在住の普通のOL。物を捨てられない性格で、家が散らかっている。
元カレとの思い出に未練はないが、プレゼントだけが手元に残っていて困っている。
物を売るのは初めてで少し緊張している。

友人：ユウカ、30代女性

明るくてお調子者の親友。元カレのプレゼントを売るのに抵抗がない派。
カオリを笑いながら後押しする。

店員：気さくな買取専門店スタッフ

丁寧かつフランクな接客で、初めて来る人でも安心させてくれるキャラクター。

【ストーリー構成】

・悩みのシーン

散らかった部屋を見て、カオリがため息をついている。

カオリ：「これ…どうにかしないと…でもどこから手をつければいいの？」

視線の先に積み上がった漫画、DVD、元カレから持ったブランドバッグなど。

カオリ：「ああ、これ懐かしい…でも正直、もう使わないな。」

床に座り込んで考えるカオリの後ろに、「元カレの幽霊」が登場。

幽霊元カレ：「俺を捨てるのか？」

カオリ：「いやいや、未練はないからさっさと成仏して！」

・友人との会話シーン

カフェでユウカに相談するカオリ。

カオリ：「元カレのプレゼント、どうしようかなあ…？」

ユウカ：「迷う必要ある？売っちゃおうよ！」

ユウカがスマホで買取専門店を検索しながら笑う。

ユウカ：「こやし屋って知ってる？査定は無料でサクッと現金になるんだって！」

ユウカ：「しかも、いろんなキャンペーンやってて高く買い取ってくれるってさ！」

カオリが笑顔で冗談を言う。

カオリ：「売ったら、そのお金でケーキでも買おうかな！」

ユウカ：「いや、もっといいバッグ買おうよ！」

・こやし屋新潟粟山店 訪問

明るい外観で落ち着いた雰囲気のコやし屋新潟粟山店。

カオリ：「ここか…思ったより入りやすそう！」

フランクな店員が登場。

店員：「いらっしゃいませ～！ご来店ありがとうございます！」

カオリ（心の声）：「接客が優しい！なんか安心できる。」

バッグを差し出しつつ冗談を言う。

カオリ：「これ、元カレの置き土産ですけど、いいですか？」

店員：「大丈夫です！たまに聞きます（笑）」

スタッフがバッグを手に取り、丁寧にチェックを始める。

店員：「とても素敵なバッグですね！このブランドは人気が高いので、
良いお値段がつきそうですよ。」

カオリ：「えっ、本当ですか？なんだか嬉しい！」

店員：「しかも、このモデルのバッグですと今も流行ってるので、商品価値としてもまだまだありますよ！」

カオリ：「何年も前の物なのに!？」

それからスタッフは査定をしながら、商品の知識を話し出した。

カオリ(心の声)：「こんなに詳しいなんて…なんか鑑定士ってすごい！」

・査定結果と満足感

店員：「本日お持ちいただいたバッグですが、買取金額〇〇〇〇〇円となります！」

査定結果を見て驚くカオリ。

カオリ：「こんなに高く買い取ってもらえるんですか!？」

店員：「はい!大切に保管されていて、状態がとても良いので!」

カオリ：「ありがとうございます!売ります!」

帰り道でケーキを買いながら嬉しそうに笑うカオリ。

カオリ：「これで今日のご褒美ケーキ代ゲット!こやし屋に行って良かった!」

元カレの幽霊が泣きながら消えていく。

幽霊元カレ：「俺のプレゼントが…でも、まあいいか。」